

はじめに

「RC401G-C 試薬調合タンク」は、残留塩素計やアルカリ度計などの水質計用試薬を調合するときに使用します。「RC401G-C 試薬調合タンク」には大型のキャストが付いていますので、純水や各種試薬が揃っている実験室などで調合を行って、そのまま水質計設置現場まで移動することが可能です。



注 意

「RC401G-C 試薬調合タンク」は、キャストの回転を妨げるような障害物のない、水平な床面をゆっくり移動させてください（タンクは台車に固定されていません）。特に、タンク内に多量の試薬が入っている場合は、重心の位置が高くなるので、転倒させないよう配慮してください。

この取扱説明書では、「RC401G-C 試薬調合タンク」の一般的な取扱い方法を説明します。試薬調合の具体的な方法については、ご使用になっている水質計の取扱説明書を参照してください。

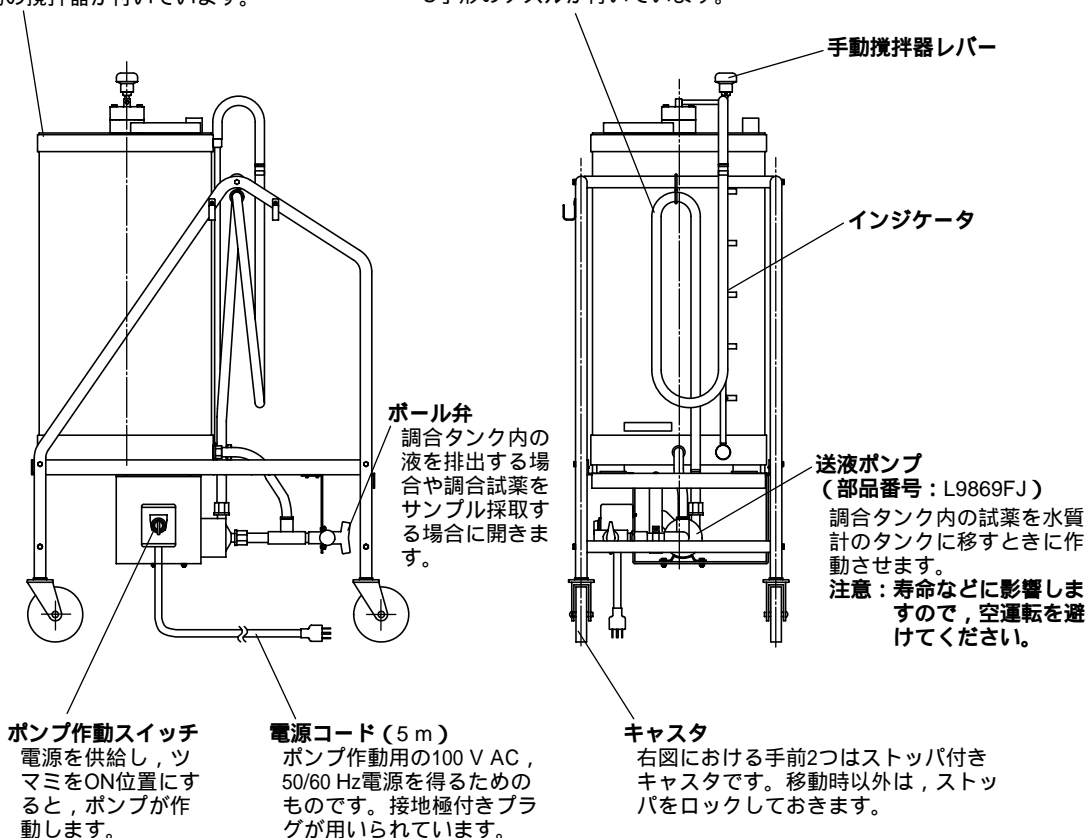
1. 各部の名称と機能

調合タンク

100リットルの試薬を調合することができる塩化ビニル樹脂製のタンク（最大容量：120リットル）です。手動の攪拌器が付いています。

送液ホース（ホース部品番号：L9901DF -2 m）

調合した試薬を水質計のタンクに移送するためのホースです。約2 mの長さの先端には、試薬の移し替え作業をしやすくするU字形のノズルが付いています。



手動攪拌器レバー

インジケータ

送液ポンプ
(部品番号：L9869FJ)

調合タンク内の試薬を水質計のタンクに移すときに作動させます。
注意：寿命などに影響しますので、空運転を避けてください。

ボール弁
調合タンク内の液を排出する場合や調合試薬をサンプル採取する場合に開きます。

ポンプ作動スイッチ
電源を供給し、ツマミをON位置にすると、ポンプが作動します。

電源コード（5 m）
ポンプ作動用の100 V AC、50/60 Hz電源を得るためのものです。接地極付きプラグが用いられています。

キャスト
右図における手前2つはストッパ付きキャストです。移動時以外は、ストッパをロックしておきます。

図1 「RC401G-C 試薬調合タンク」の各部名称

2. 仕様

寸法： 約500 mm(幅) × 約1280 mm(高) × 約850 mm
(奥行)

質量： 約40 kg (タンク内が空のとき)

- ・ 調合タンク部 (手動攪拌器付き, インジケータ付き)

タンク容量：調合総量100リットル (最大120リットルまで可)

タンク材質：硬質塩化ビニル樹脂

- ・ 架台部 (キャスタ付き)

主材質：フレーム：鋼管 (SPG30A)

ブラケット：鋼板 (SPCC)

塗装：メラミン樹脂系塗料焼付け塗装

塗色：灰色

- ・ 送液部

ポンプ (シールレスポンプ)

吐出流量：14 ~ 35 l/min

接液部材質：ポリプロピレン樹脂, ハステロイ, セラミックス, フッ素ゴム

電源：100 V AC, 50/60 Hz

消費電力：65 W

電源コード：2芯PVC絶縁PVCシールケーブル, 長さ5 m

配管類

材質：塩化ビニル樹脂 (軟質/硬質)

3. 保管する際の留意点

- ・ 長期にわたって使用しない場合は、タンク内を空にしてください。また、必要があれば、洗浄してください。
- ・ タンク内に埃などが入り込まないように処置してください。
- ・ 保管に際しては、コンセントから電源コードのプラグを抜き、ポンプ作動用スイッチをOFFにしておいてください。
- ・ キャスタのストッパを、2か所ともロックしてください。

4. 試薬調合を行う場合の留意点

- ・ まず始めに、ボール弁が全閉していることを確認してください。
- ・ 電源コードのプラグは、ポンプ作動用スイッチがOFFになっていることを確かめてからコンセントに差し込んでください。使用できる電源は、100 V AC (50/60 Hz) です。



注 意

万が一の漏電事故を防ぐため、電源コードは濡らさないようにしてご使用ください。

- ・ 試薬調合の最終段においては、ポンプを2~3分間作動させ (送液ホースのノズル先端部を調合タンクに入れた状態で)、試薬を循環させて濃度の均一化を図ってください。

5. 移動させる場合の留意点

- ・ 「はじめに」で述べた“注意”を守ってください。調合タンクに多量の試薬が入った状態での移動は、トラブルを避けるためにも、できるだけ2人以上の人数で行うことをお勧めします。

6. 試薬を水質計タンクに移す場合の留意点

- ・ 電源コードのプラグは、ポンプ作動用スイッチがOFFになっていることを確かめてからコンセント (接地極付き) に差し込んでください。使用できる電源は、100 V AC (50/60 Hz) です。
(注)ポンプに吐出流量は、電源周波数によって異なります。
- ・ 送液する前に、水質計のタンクに入れる試薬の量を把握してください。
- ・ 送液は、調合タンクのインジケータで液面の変化を見ながら行ってください。なお、タンクに表示されている目盛は、目安としてのものです。

7. 点検・保守、および部品交換

- ・ 電源コードの点検

漏電事故や短絡事故を未然に防ぐため、時々ケーブルの絶縁被覆に著しい損傷がないことを点検してください。
(ケーブルの交換が必要な場合は、当社へご連絡ください。)

- ・ 送液ポンプの交換

送液ポンプは、ポンプ室とモータ室の間のシール部のない構造 (マグネットドライブ方式) をしているので、定期的にシール部品を交換するなどの保守を行う必要はありません。

長時間の使用によってポンプが寿命に達し、異音や異常な振動を発生したり、電源を供給しても送液されないなどの現象が生じたりするようになったときは、新しいポンプと交換してください。